

会議録

1. 附属機関の名称 : ヒツバタゴ保存活用計画策定委員会

2. 開催日時 : 令和5年2月10日(金) 午後2時00分から午後3時30分まで

3. 開催場所 : 犬山市役所 4階 401会議室

4. 出席した者の氏名

(1) 委員 林進、増田理子、玉木一郎、赤塚次郎、半谷美野子

(2) 執行機関 滝教育長、中村教育部長

歴史まちづくり課 加藤課長、渡邊課長補佐、中村主査補、大前主事補

(3) その他 オブザーバー 愛知県埋蔵文化財調査センター所長 洲崎

支援業者 (株)環境アセスメントセンター 美馬、栗原、杉森、近藤

5. 協議事項

(1) 令和4年度実施報告

(2) 令和5年度事業計画(案)

(3) 今後のスケジュール

6. 会議要旨

(1) 令和4年度実施報告

(事務局より資料に基づき、令和4年度実施報告について報告)

委員 1:説明にあった地下水位-1.2mの場所は、p28 地図の土壌分析地点①付近で、地点②付近は約-0.4mとの認識でよいか。地点①②の間の標高差はどうか。地下水位は基本的に一定か、または地下水位面に変動があるか。

事務局:地点②付近は-0.4m~-0.6mで地下水がしみだしたことから、そのあたりに地下水面があると考えられる。地点②では-0.5m~-0.6mでグライ土がみられ、長く地下水が存在することがわかる。地点①では-0.6mでもグライ土がみられない。地点①②の地盤高の差は未測定だが、北側へ向かって緩やかに傾斜がある中で、地下水面も北側へ下っているものの、ほぼ一定ではないかと考えられる。枯死木の近く(南側)で地下水位計を設置するために2m試掘したが、地下水位

面を確認できなかった。そのため、地盤がやや下がった北西側を地下水位の調査地点とした。指定地の南側は、西洞池堰堤からの土砂がたまる可能性が考えられる。

委員 2:資料 1-2 保存活用計画書(案)の記載対象は、指定地だけを範囲とするのか、それとも西洞池や周辺の広い範囲を記載していくのか。

事務局:自生地(指定地)だけではなく、その周辺も含めての記載を想定している。豊川市の天然記念物御油の松並木などでも事例があるとうかがっている。

委員 2:犬山市の湿地全体の 1 つとしてヒツバタゴ自生地の湿地を捉えていきたい。

委員 2:東海丘陵要素の 1 つとして、なぜ自生地がこの場所にあるか、文化遺産が周辺にあることも含め、市民にわかりやすいように記載いただきたい。また、ちょうど市境にあるため地図を表示させるにいが、全体の中でどのような位置にあるかを示したらよい。

事務局:当地の背景、全体像がわかるように示す必要があると理解した。

オブザーバー:豊川市御油の松並木においては、道路や堤塘から 15m の範囲を松並木の根が及ぶ範囲として公有地化し、保護区域として追加指定している。刈谷市にある天然記念物小堤西池カキツバタ群落でも、隣接する山林を自生地への重要な供給源として指定している。

委員 長:天然記念物清田のオオクスでは、500mはなれた上流部における道路付け替え工事が計画されたが、地下水や根の方向からオオクスへの影響が考えられることから計画を変更した事例がある。地下水の流下方向や根を守る、または周辺の環境を同時に守るなどの範囲を特定してもよいと考える。影響を与える範囲と、保存活用計画に広く記載する範囲の二段階で捉えたらどうか。

オブザーバー:ゾーニングは重要なことかと思う。

委員 3:環境調査の成果が保存活用計画に反映でき、地下水の流れもわかっていくことは非常によいと思う。地点①では土壌が違い、上流から崩れてきたものが溜まっているようである。

委員 1:標高等の測量と地質の調査が必要だと思う。

委員 長:40 年前の溜池(西洞池)の改修工事で、浚渫した土砂を指定地の上に積んで、自生地の乾燥化が進んだと思う。溜池では浚渫を行ったことでヒメコウホネが復活した。P24 に地下水の流動方向を示すとよい。

委員 4:地下水位の調査ができなかった地点は、ササの根の繁茂がひどく調査ができなかったのか。

事務局:上流側で地下水測定の試掘をしたが、持参した機材で測定可能な 2m 以内で地下水が見られなかったため、地下水が浅い別の場所に変更した。穴を掘る作業では、ササの根が薄かったため、それほど影響はなかった。

(2) 令和5年度事業計画

(事務局より資料に基づき、令和5年度事業計画について報告)

委員 長:動物調査はセンサーカメラで実施するのか。小屋を撤去したためネコがいなくなり、小型哺乳類の動きがでてきたのではないか。シカとカモシカが捉えられるとよい。市役所環境課で目撃情報を集めているので、確認するとよい。

委員 3:フロラ調査(植物相調査)は早春に入るか。早春期の調査が抜けやすいため、実施してほしい。

委員 1:ドローン撮影はいつを想定しているか。開花時期には実施してほしい。また、西洞は開口の方向が夏至の太陽の方向に向かっているため、ヒツバタゴの生育に関係するかは不明だが、そのような時期の映像などが考えられる。

委員 長:昆虫調査は、開花時期に見物人が多いため、やりにくいであろう。看板の設置や、トラップなど無人でできる方法など、調査の方法を考えたほうがよい。

委員 3:ドローン撮影時にセンサーカメラを付けると、水の状況や植物の光合成の状況などがわかるので検討するとよい。

委員 1:ドローン撮影の範囲はどれほどを考えるか。開花時期に範囲を広げれば、上空からマメナシ、ハナノキなどを見つけることができる。

事務局:ドローン撮影の範囲は、指定地及び周辺として、保護区域として広めに実施したい。

委員 長:ドローン撮影は、樹勢診断、樹冠投影図、光環境とあわせるなどに対応できる。

(3) 今後のスケジュール

(事務局より資料に基づき、今後のスケジュールについて報告)

オブザーバー:保存活用計画書はまだ作成し始めた段階であるから、市民の方々が参考にする大切な書物となる。今後 p15、p16などを行政の方々がわかりやすいようにするなど、書き加えるとよい。

委員 長:一般市民にもわかるようになるとよい。